

## 情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2026 年 1 月 30 日作成 第 1.0 版

研究課題名	大腿骨寛骨臼インピンジメント症候群に対する関節鏡視下骨軟骨形成術の費用対効果に関する研究
研究の対象	2019 年 4 月～2024 年 12 月の間に、横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科において股関節鏡手術を受けた患者さんを対象とします。
研究の目的	<p>大腿骨寛骨臼インピンジメント症候群（FAIS）の治療においては、保存療法や従来の外科的治療が広く行われていますが、近年、関節鏡視下骨軟骨形成術が施行される機会が増えました。関節鏡視下骨軟骨形成術は比較的新しい治療法であり、その有効性については報告がある一方で、日本の医療制度下における医療経済学的有用性、すなわち費用対効果についての国内報告は十分とは言えません。</p> <p>そこで本研究では、FAIS に対する関節鏡視下骨軟骨形成術について、従来の治療と比較しながら、治療成績および医療資源利用の観点から費用対効果を評価し、今後の FAIS 診療および医療制度上の検討に役立てることを目的としています。</p>
研究の方法	本研究では、FAIS に対する関節鏡視下骨軟骨形成術について、診療録および医事会計・診療報酬請求システムから得られた既存の情報を用いて、医療費および治療効果を基に費用対効果を検討します。本研究では新たな検査や試料採取は行わず、通常の診療で得られた情報のみを用いるため、研究対象の方に新たなご負担はありません。
研究期間	西暦 2026 年 3 月 25 日（研究機関の長の許可日） ～ 西暦 2026 年 12 月 31 日 情報の利用を開始する予定日：西暦 2026 年 3 月 25 日（研究機関の長の許可日）
研究に用いる 試料・情報の項目	【情報】個人が特定できないよう加工した医療費（レセプト）データから以下の情報を収集します。 ・背景情報：年齢、性別、算定日、項目名、疾病名、入院日、退院日、金額（円）
試料・情報の授受	本研究では、外部機関との情報の授受はありません。 情報は、当院で少なくとも 5 年間保管しますが、本研究の目的以外の学術研究に用いられる可能性または他の研究機関に提供する可能性があるため、保管期間終了後も期間を定めず保管します。廃棄する際は、復元できない方法で廃棄します。
個人情報の管理	本研究では、個人を特定できる情報を当院で取り扱うことはありません。 ただし、解析方法の検討のために、個人が特定されないよう処理された研究データを、他機関の専門家に提示する場合があります。

## 情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

<b>試料・情報の管理について責任を有する者</b>	当院の個人情報の管理責任者は病院長であります。その責務を以下の者に委任され管理されます。 研究責任者：横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科 小林 直実
<b>利益相反</b>	利益相反とは、研究成果に影響するような利害関係を指し、金銭及び個人の関係を含むものです。本研究は、研究責任者が所属する診療科の基礎研究費を用いて行います。本研究で、開示すべき利益相反はありません。
<b>研究組織（利用する者の範囲）</b>	【研究機関と研究責任者】 横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科 （研究責任者）小林 直実
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先までお申出下さい。</p> <p>本研究では、個人を特定できる情報を含まないかたちで情報の提供を受けます。当院で個人を特定することができないため、研究利用への拒否の連絡をいただいた際対応いたしかねますことをご了承ください。</p>	
<b>問合せ先：</b> 〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター 整形外科（研究責任者・問い合わせ担当者）小林 直実 電話番号：045-261-5656（代表）	